

牛ボツリヌス症が国内で散発しています

牛ボツリヌス症は、ボツリヌス菌(クロストリジウム属菌)が産生する**毒素**による病気です。

ボツリヌス菌は自然界に広く存在し、「芽胞」を形成すると熱・乾燥・消毒薬等に強い状態になり、排除することが難しい細菌です。感染牛は、見かけ上健康でも糞便に排菌することで汚染が広がります。近年、県内での発生はありませんが、全国的に散発しています。

原因

ボツリヌス菌の毒素に汚染された**飼料**(発酵品質の悪いサイレージ、野生鳥獣の糞便が混入した飼料)を食べることにより感染。

症状

起立不能(後躯麻痺)、**腹式呼吸**、**食欲廃絶**、流涎(よだれ)、舌麻痺(舌を出した状態)など。

発症後、**半日~2日で死亡**する牛が多く、致死率が高い。農場内で短期間に多数の家畜が死亡することが多く、経済的損失が大きい。

対策

- ① サイレージの適正な調整・管理 ➡ 変敗した飼料は給与しない
- ② 飼水槽・畜舎周囲の清掃
(有効な消毒薬：塩素系、ヨード系、アルデヒド系)
- ③ 野生鳥獣の畜舎内侵入防止：防鳥ネットなど
- ④ ワクチン接種：4週間隔2回接種
(発症は予防できますが、排菌は予防できません)



ボツリヌス症に有効な治療法は無いため、発生予防対策が重要です。衛生管理の徹底、発症牛の早期発見・隔離、飼料の適正管理などによる対策をお願いします。